

イタリア・ガストロノミーから読む都市と地域の再編集

7月21日(火) 18:00 オンライン By 比較住宅都市研究会

報告者:岡崎 啓子氏(Food & Agriculture Communication /ガストロノミー・デザイナー)

要旨:

都市は、計画だけではできていない。都市の建築・道路・用途地域といった「見える構造」の下には、食文化・農村との関係性・移民の記憶・市場やカフェという知の場など、地図には載らない「見えない層」が積み重なっています。その層の厚みこそが、都市の本当の豊かさを、そして時に再生の可能性を、決定づけてきました。本セミナーでは、イタリア "ガストロノミー"の視点から、北部ピエモンテ州の2つの事例を取り上げます。ひとつは、スローフード運動の発祥地であるブラ市・アルバ市周辺 - 食の思想が街の空間・経済・アイデンティティをどう変えたか。もうひとつは、イタリア統一後、共和国初めての首都となり、現在はピエモンテ州都であるトリノ市の栄光と喪失。そして同市内のリンゴット地区 - 産業の栄枯盛衰を生きたのちに、Eataly プロジェクトによって食文化の拠点として再生され、都市のアイデンティティが可視化された事例を紹介し、これらを通じて「誰が、何が、都市の地域の価値を定義するのか」という問いを共有し、参加者の皆さまとともに考えたいと思います。

講師のプロフィール:

埼玉の兼業農家に育ち、食と土地のつながりを体で知る幼少期を過ごす。東京で大学卒業後、スローフード運動との出会いを機に2004年渡伊。イタリア食科学大学(UNISG)学部第1期生として学び、卒業後はEataly S.p.A. 海外開発部門にて、生産者と市場を繋ぐ実務(商材調達・ロジスティクス・PR・イベント企画)を担当。これらの経験を経て辿り着いた、一つの問い - 食とガストロノミーの視点から、生産者と消費者、都市と農村、人と土地、切り離されてしまった関係性をいかに再構築できるか。これを軸に、調査・執筆・講演・コンサルティングを行う。京都芸術大学通信教育部非常勤講師(食文化デザイン/ガストロノミーツーリズム)。社会協同組合 JIEN 所属。ピエモンテ州に12年、現在はエミリア=ロマーニャ州・ピアチェンツァ在住。

会場:東京都立大学同窓会 八雲クラブニュー渋谷コーポラス 10階 1001号室

渋谷駅 徒歩5分 渋谷区宇田川町12-3 電話 03-5489-8123

(地図はホームページ <https://tmu-alumni.jp/yakumo-club> 参照)

参加費:1000円(学生は500円)

ネット参加の場合は、webexによるウェブ会議で参加できます。

ネット参加費:600円(学生無料)

*参加希望者は、資料及び会議室などの準備の都合がありますので、前日までにあらかじめEメールで、氏名、所属、会場参加かネット参加かをご連絡下さい。ネット参加の方にはpeatixのシステムによる支払い方法を送信しますので前日までに支払いください。申し込み後に欠席等する場合も、お手数ですがメールでご連絡下さい。

問い合わせ・申込み先:比較住宅都市研究会事務局 海老塚良吉

E:mail:ryou.ebizuka@nifty.com ホームページ

<http://home.g08.itscom.net/ebizuka/>

